

出張報告書

下関市議会議長殿

令和6年8月21日

職氏名 市議会議員 坂本 晴美	用 務 (株)廣瀬行政研究所セミナーに参加
期 間 令和6年8月20日から 令和6年8月20日まで	出張先 第一イン池袋「アゼリア」

テーマ 観光需要の急激な回復に伴う市町村における

「新たな稼ぐ観光政策」～観光政策の落とし穴と、鋭い議会質問とは？～

1部：観光政策の落とし穴と鋭い議会質問とは

2部：参加者同士の交流と観光ワークショップ

1部では、篠原准教授の大手旅行会社での実績をもとに、今までの観光とこれからの観光の違いを分かりやすく、説明された。

Ex. 「道の駅」目指すべきキーワード

- ① 「今だけ」＝「この季節！今だけの旬に」
- ② 「ここだけ」＝「ここの土地だけで獲れた物を」
- ③ 「あなただけ」＝「私にだけ特別に提供してくれる」

地域の独自性に徹底的にこだわる事をベースに新たなアイデア次第で、目の肥えたわがままな消費者（旅人）を満足させることができる。「伝える」「学ぶ」をキーワードに地域・市民が連益して価値を作り上げてい行くことが大切。

今までの観光は、コンビニ型観光で、「いつでも、どこでも、どなたでも」これからの観光は、すし屋のカウンター型観光、「そこでしか感じられない、今だけ・私だけの旅」が重要になると説明された。

2部では、参加された他市の議員さんが、それぞれの観光への思いを語られた。新しく体育館を建てて、大きな大会を誘致したい、プロのサッカーチームを立ち上げたい、古くなった旅館を子ども達のソフトボールや野球チームの試合を誘致して、宿泊所として提供したい、これらのことを観光に繋げていきたいと、熱い思いを語られていた。

スキー場を経営されている方で、コロナ後に、観光客がまだもどらない時に、観光客には特別なコースとおもてなしを準備し、市民には優待券を準備することで、観光客数は減ったが、一人あたりの単価が高くなったことで、収益が逆に上がったと話されていた。

本市は、ちょうど新総合体育館も出来、地元にはサッカーチームもある。歴史的資源もあり、これから星野リゾート、火の山公園などプラスの要素が沢山出来る。しっかりと私たちも考え、協力していきたいと思う。

最後に、講師がリピーターが増やすためには、そこに住んでいる市民が明るく、自分の街を誇りにおもって、観光客に接することが大事と言われていたことが印象に残った。

観光需要の急速な回復に伴う市町村における 「新たな稼ぐ観光政策」

観光政策の落とし穴と、鋭い議会質問とは？～

同時開催！
オンラインセミナー

8/20 (火) in 東京 10:00 ~ 17:00

※途中1時間の昼休憩があります。



篠原 靖 (しのはら やすし)

【内閣府地域活性化伝道師・跡見学園女子大学准教授】

専門研究分野は「観光による地域活性化論」、「交流人口拡大論」。地域に眠る観光素材を掘り起こし、具体的な旅行商品化を図る面白企画の達人。大胆かつ斬新な発想での商品開発力はテレビ・新聞等マスコミでも有名。現在、全国各地で新しい観光プログラムの開発や人材育成セミナーを担当し、広域観光圏やDMO組織構築、インバウンド戦略、ニューツーリズムによる集客システムの開発等を手がけている。また国土交通省「社会資本整備審議会委員」、観光庁：「外国人旅行者に対する地域資源の意識調査事業」検討委員会座長、『テーマ別観光による地方誘客事業』、令和6年度観光庁「地域観光新発見事業」有識者委員等も歴任。

【1部】 観光政策の落とし穴と、鋭い議会質問とは

1. 観光需要の急速な回復に伴う市町村における新たな稼ぐ観光政策
2. 今がチャンス!高付加価値を生む観光ブランドの作り方
3. 政府の観光予算の活用について
4. DMOが抱える課題と観光人口の創出 ふるさと納税
5. 避けては通れない少子高齢化時代の観光振興

【2部】 参加者同士の交流と観光ワークショップ

1. 市町村の観光政策の落とし穴 事例研究
2. 受講者が抱える地域観光の課題の共有と今後の立て直し
3. 形骸化した自治体の観光計画からの脱却のポイント
4. ケーススタディ:リアル事例の研究①
5. ケーススタディ:リアル事例の研究②

(株)廣瀬行政研究所